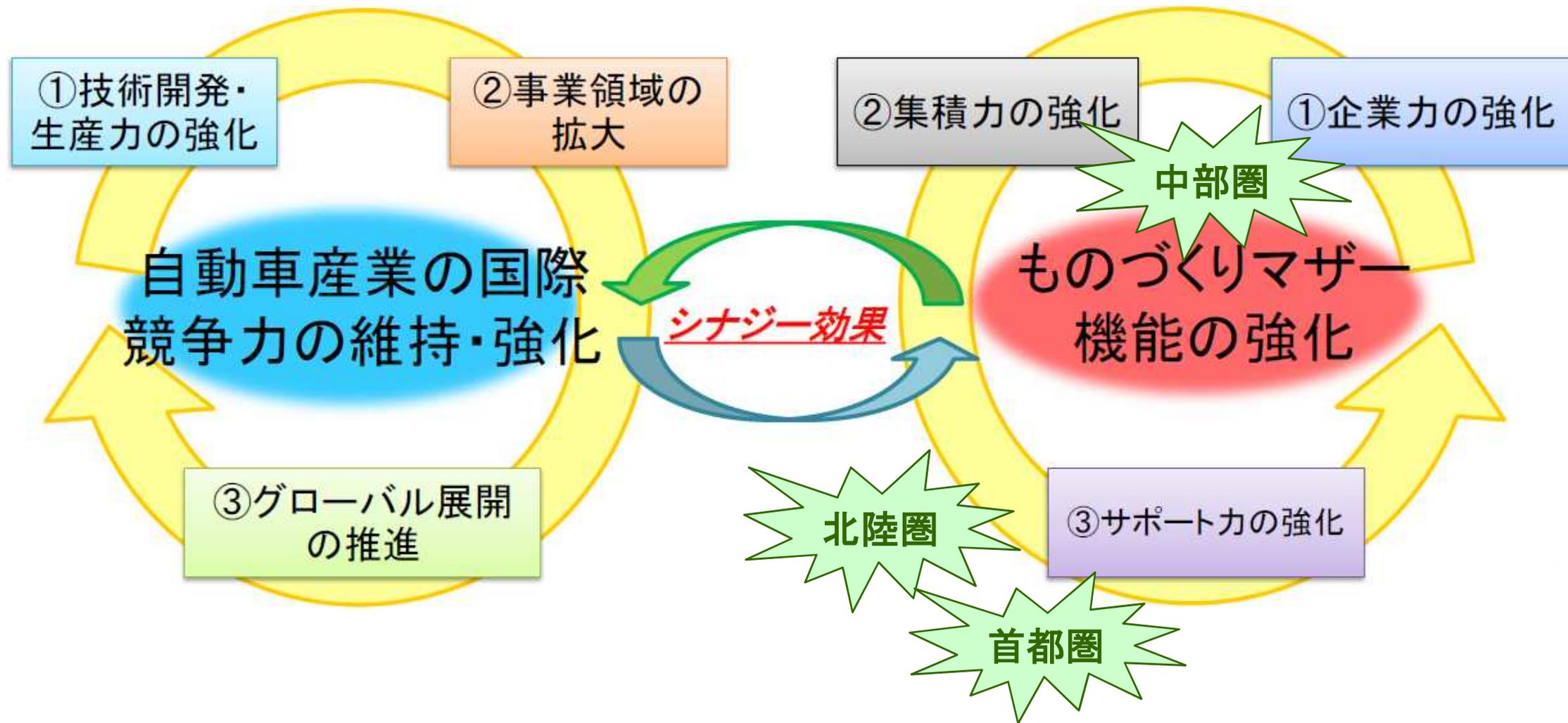


中部圏の成長戦略～次世代製造業の高付加価値化、観光・農林水産業



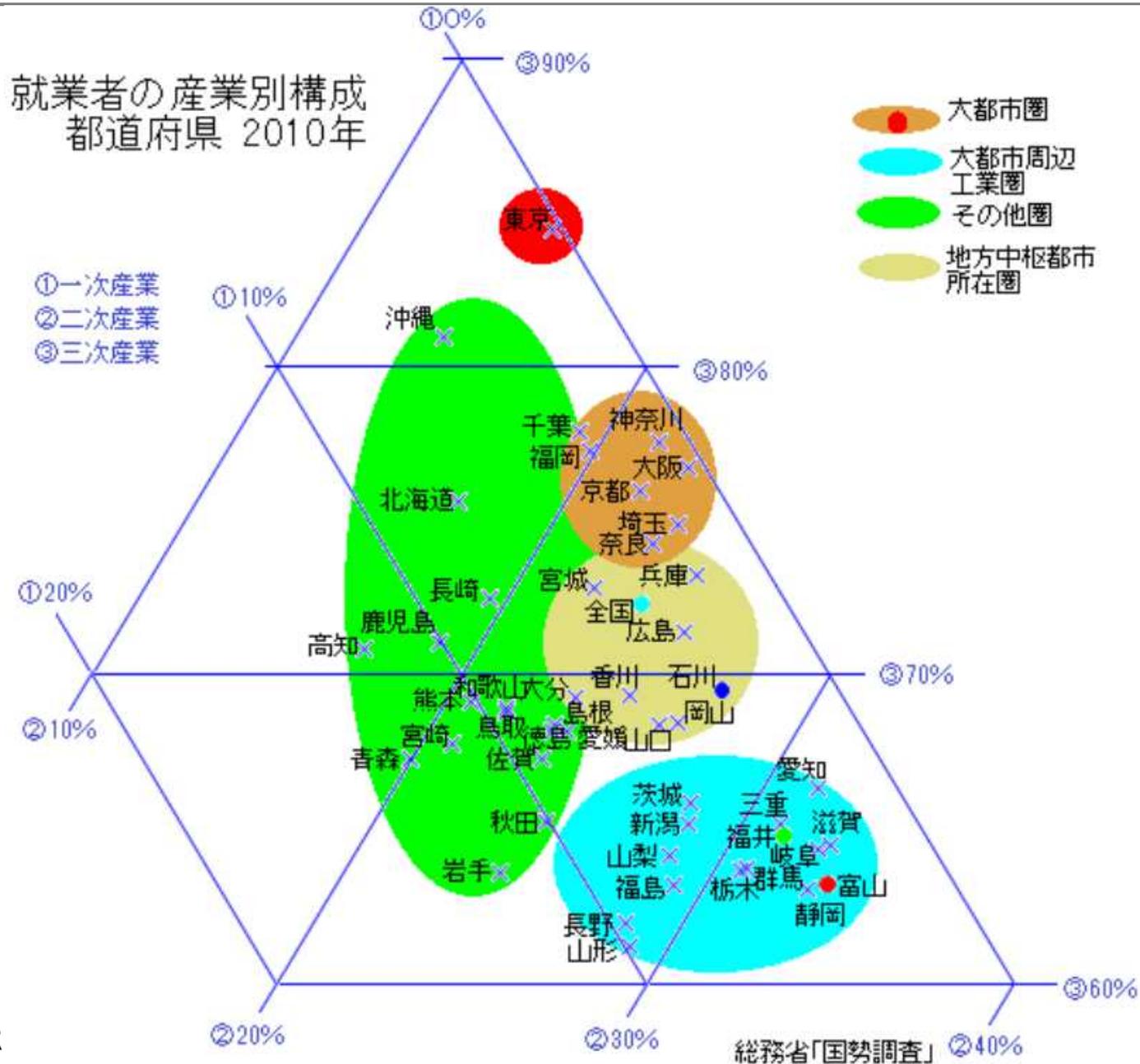
(出所) 中部経済産業局「中部地域八ヶ岳構造創出戦略」

中部圏の次世代ものづくり～北陸圏や首都圏との連携による競争力強化



資料：中部経済産業局資料を基に加工

就業者の産業別構成からみて、親和性の高い北陸圏と中部圏



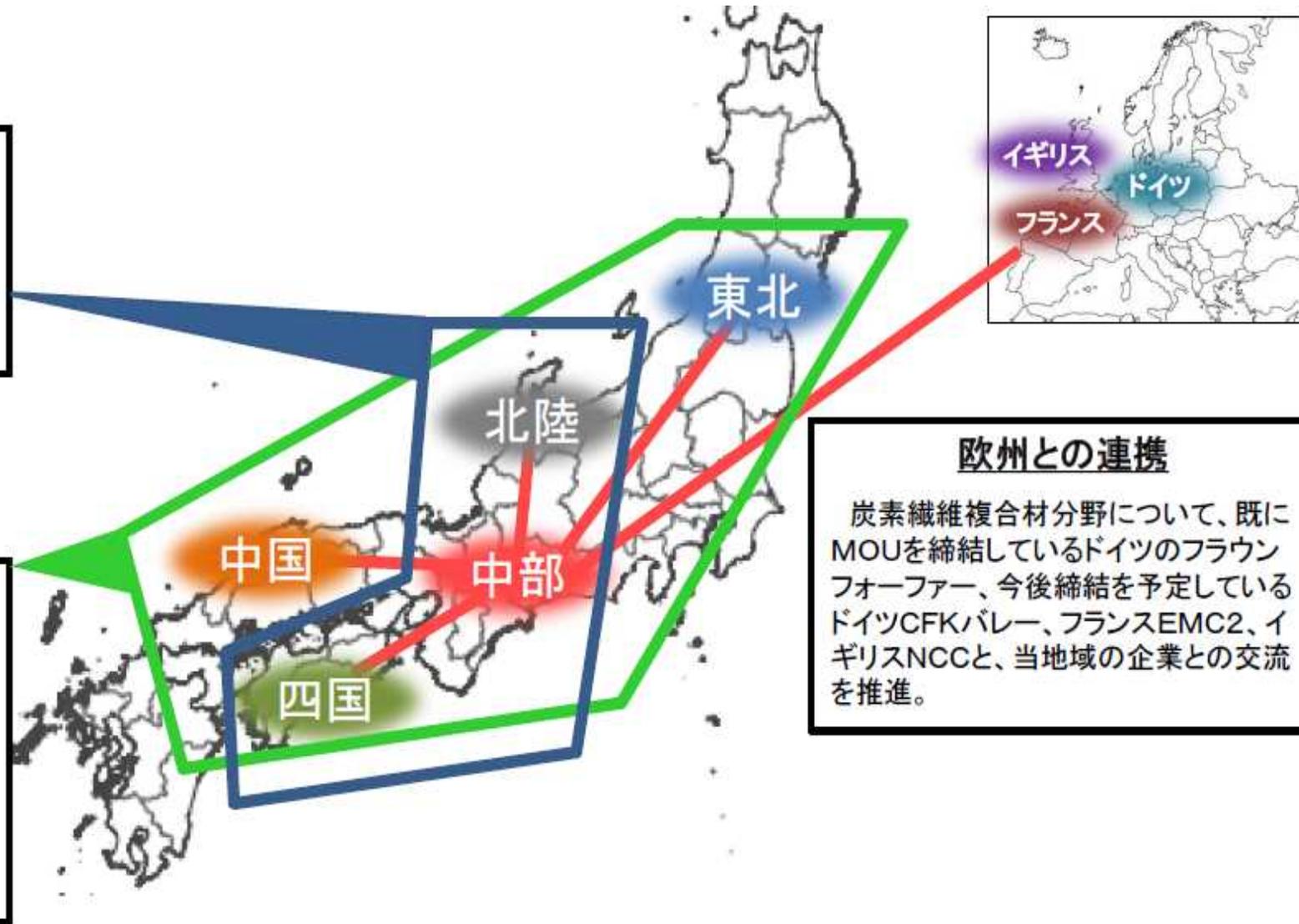
川下ユーザーの技術シーズに応えるため、国内他地域との連携が不可欠

炭素繊維複合材分野での連携

炭素繊維複合材関連の集積がある各地域が、それぞれの強みを活かし、弱みを補完するような研究開発体制を構築するため、密接な連携を図る。

各地域のコーディネーターによる 情報交換・共有の推進

自動車関連産業(素材等含む)の集積がある東北地域、中国地域、北陸地域、四国地域等の各地域のコーディネーターによる情報交換、情報共有を推進することにより、地域を越えたコンソーシアム形成を促進する。



欧州との連携

炭素繊維複合材分野について、既にMOUを締結しているドイツのフラウンフォーファー、今後締結を予定しているドイツCFKバレー、フランスEMC2、イギリスNCCと、当地域の企業との交流を推進。

資料：中部経済産業局

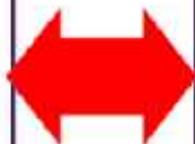
炭素繊維複合材分野での世界的な開発・生産拠点の形成に向けた連携

CFK VALLEY STADE™
 CFK VALLEY (ドイツ)
 自動車・航空機メーカー、
 研究機関等約100社

EMC2

Fraunhofer

NATIONAL COMPOSITES CENTRE



他産業との横連携によるビジネスチャンス～技術融合による相乗効果

軽量化技術

例) 「炭素繊維複合材料」



自動車、鉄道、電力

例) 「ボンネット・フード」
(炭素繊維複合材)
「新幹線機首」(〃)
「風力発電」(〃)



システム ・制御技術

例) 「アンチスキッドブレーキ」
「フライ・バイ・ワイヤ」
「ミリ波レーダー」



自動車

例) 「アンチロックブレーキシステム」
「ステア・バイ・ワイヤ」
「衝突防止レーダー」



電化技術

例) エルロン等電動アクチュエーター
航空機電源ポーイング787



自動車、ロボット

例) 電動アクチュエーター
リチウムイオン電池



環境技術、省エネ

例) 空調システム
メッキ技術

自動車、家電

例) ヒートポンプ技術
空気清浄技術、脱クロムメッキ技術

新幹線の既開業区間の開業効果～時間短縮効果と利用者の増加

■北陸新幹線 (高崎・長野間)



■東北新幹線 (盛岡・八戸間)



■九州新幹線 (新八代・鹿児島中央間)



■東北新幹線 (八戸・新青森間)

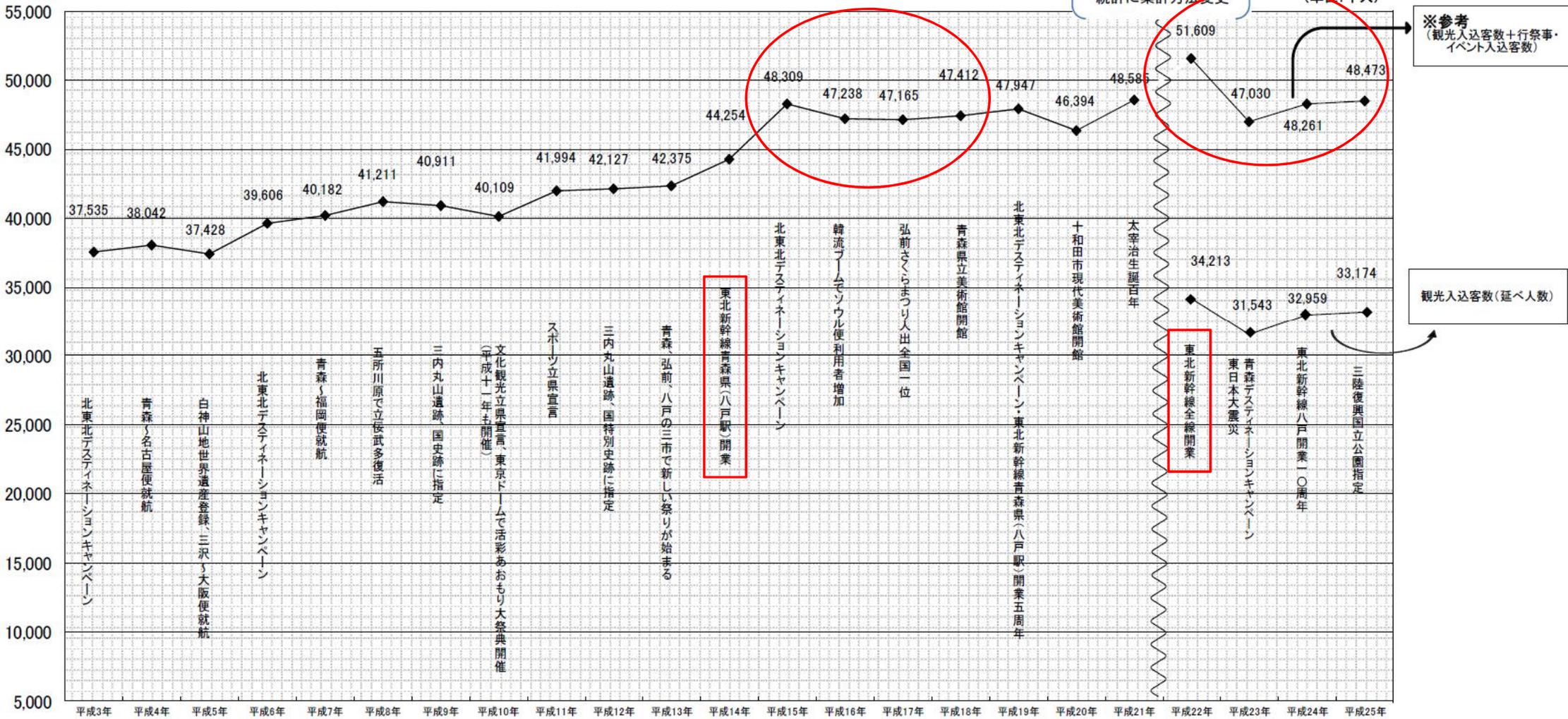


■九州新幹線 (博多・新八代間)



東北新幹線開業による観光入込客数への影響～八戸、新青森開業前後

観光入込客数の推移



資料：青森県

「昇龍道」プロジェクトは北陸圏中部圏の重要な成長戦略～訪日客・シニア

今回の訪日旅行での実施済み項目(複数回答) (%)

全体		韓国	
1 日本食を食べること	95.0	1 日本食を食べること	90.6
2 ショッピング	76.8	2 ショッピング	61.4
3 繁華街の街歩き	64.2	3 繁華街の街歩き	56.3
4 自然・景勝地観光	58.5	4 自然・景勝地観光	49.8
5 旅館に宿泊	51.9	5 温泉入浴	40.1

台湾		中国	
1 日本食を食べること	95.7	1 日本食を食べること	93.6
2 ショッピング	85.5	2 ショッピング	84.4
3 旅館に宿泊	76.4	3 旅館に宿泊	67.6
4 繁華街の街歩き	68.1	4 自然・景勝地観光	60.5
5 自然・景勝地観光	67.8	5 繁華街の街歩き	60.5

次回訪日旅行での実施希望項目(複数回答) (%)

全体		韓国	
1 日本食を食べること	49.5	1 温泉入浴	50.3
2 温泉入浴	47.3	2 日本の歴史・伝統文化体験	26.5
3 ショッピング	40.4	3 旅館に宿泊	24.5
4 自然・景勝地観光	40.1	4 四季の体感(花見・紅葉・雪など)	23.6
5 四季の体感(花見・紅葉・雪など)	32.3	5 日本の生活文化体験	23.2

台湾		中国	
1 日本食を食べること	46.4	1 日本食を食べること	57.6
2 温泉入浴	43.8	2 温泉入浴	53.5
3 ショッピング	40.8	3 ショッピング	53.1
4 自然・景勝地観光	38.7	4 自然・景勝地観光	45.7
5 四季の体感(花見・紅葉・雪など)	36.5	5 繁華街の街歩き	37.5



成長戦略を支える高度インフラ、企業誘致や観光振興には道路は不可欠

- 高速道路の環状化は、観光資源のパッケージ化や生産活動の効率化に不可欠。



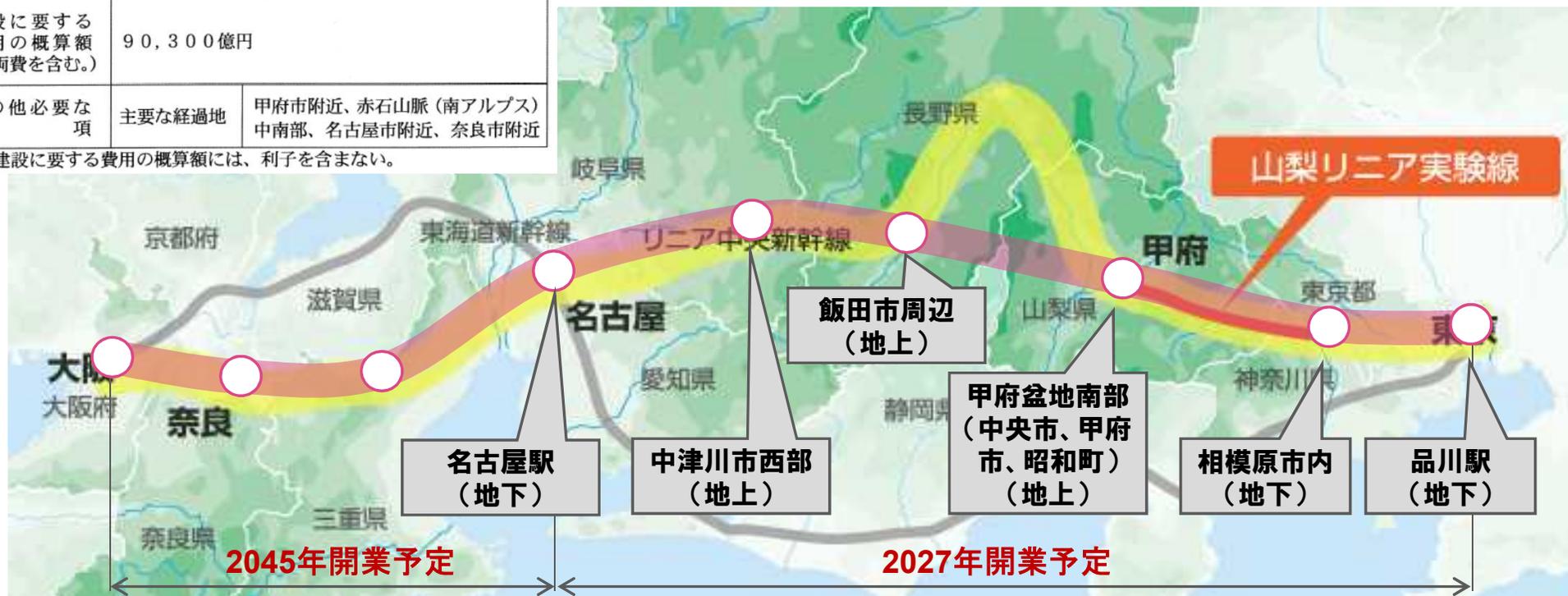
2027年リニア開業効果～名古屋が首都圏近郊都市と同等の時間距離に

- 2027年リニア開業は、2020年東京五輪後の落ち込みをカバーするビッグプロジェクト。
- 品川40分、奈良25分、大阪27分、京都30分(のぞみ乗換)で名古屋が観光滞在拠点に

ルート

建設線	中央新幹線	
区間	東京都・大阪市	
走行方式	超電導磁気浮上方式	
最高設計速度	505キロメートル/時	
建設に要する費用の概算額(車両費を含む。)	90,300億円	
その他必要な事	主要な経過地	甲府市附近、赤石山脈(南アルプス)中南部、名古屋市附近、奈良市附近

(注) 建設に要する費用の概算額には、利子を含まない。



※品川～名古屋駅間の中間駅についてはJR東海「中央新幹線(東京都・名古屋市間)計画段階環境配慮書」を元にMURC作成

2015年7月6日

「北陸圏・中部圏の国土形成を考える会」

佐藤 久美

金城学院大学国際情報学部

NPO 法人「愛知善意ガイドネットワーク」副理事長

1. 各地域の国際交流協会や国際交流団体などによる国際化ニーズへの対応
 - (1) 海外からの訪問者や日本で学ぶ青少年の受け入れなど
 - ① 地域での受け入れと人材育成。
 - (2) 地域に居住する外国人住民への対応
 - ① 国際理解の促進と多文化共生社会の土壌づくり
 - ② 市民によるサポート体制の充実。市民との交流の促進。
 - (3) ネットワークの構築
 - ① 外国人住民と市民との交流と連携の促進。
 - ② ボランティアの育成。
 - ③ 多言語情報発信の充実。
2. 海外からの観光客受け入れに関する対応
 - (1) おもてなしの風土の醸成
 - ① 外国人観光客に対してのおもてなしの風土づくり。
 - ② 外国人の日本文化体験や外国人との交流等に関して、経験とノウハウのある国際交流協会や国際交流センター、ボランティア団体、観光ボランティアガイドなどとの連携による外国人観光客の誘客と情報発信。
3. 北陸圏・中部圏の国際交流協会や国際交流センターなどとの連携や協力の促進とコーディネート機能の構築。
 - ① 国際交流協会などの多言語情報提供の仕組み。
 - ② 生活情報、観光情報、災害情報などで外国人支援を行っている各地域の国際交流協会や国際交流センターなどとの情報交換と連携。
 - ③ 圏域を越えた外国人住民や外国人観光客に対応するための多言語支援ネットワークとコーディネート機能の構築。
4. 日本に在住する外国人住民や日本を訪問する外国人観光客との交流を深めながら、互いの協力のもとに日本の魅力を世界に発信する仕組みづくりへ。

参考：中部圏・北陸圏の国際交流協会

(公財) 愛知県国際交流協会愛知県国際交流協会、(公財) 名古屋国際センター、(公財) 岐阜県国際交流センター、
(公財) 岐阜市国際交流協会、(公財) 三重県国際交流財団、(公財) とやま国際センター、(公財) 石川県国際交流協会、
(公財) 福井県国際交流協会、(公財) 静岡県国際交流協会、静岡市国際交流協会、(公財) 浜松国際交流協会

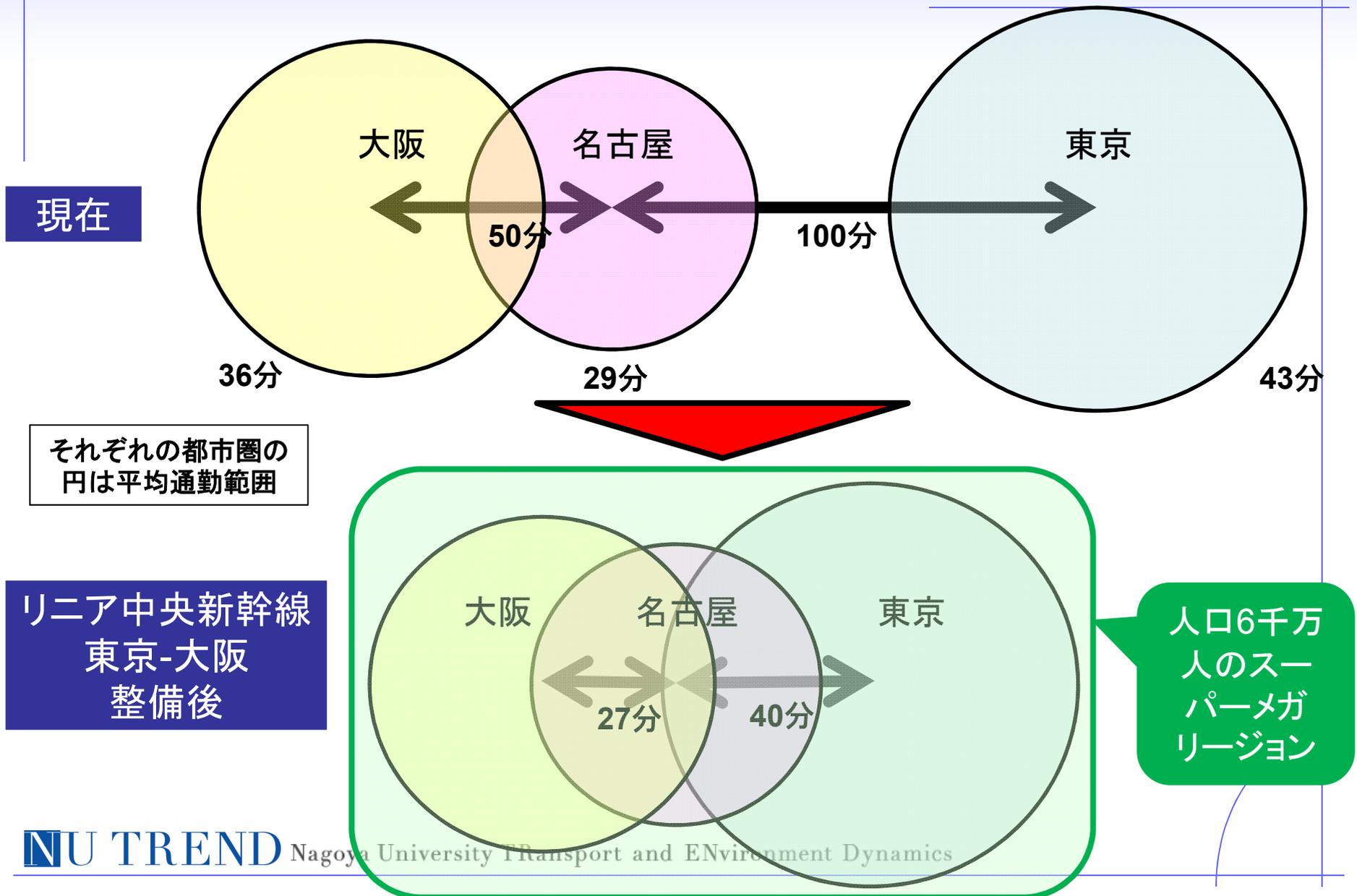
リニア中央新幹線がつくるスーパーメガ リージョンにおける中部圏のあり方

2015年7月6日

名古屋大学
未来社会創造機構 教授
グリーンモビリティ連携研究センター長

森川 高行

リニアによるスーパーメガリージョン(SMR)の形成



SMRは単なる巨大都市圏であってはならない

- 3大都市圏がそれぞれ特徴をもち、シナジー効果を発揮すべき
- いくら時間距離が短くなると言っても、大きな料金抵抗がある。料金抵抗を超える効用が無いとつながる意味は薄い。
- どこかの都市圏が大規模災害などで機能低下したときに他都市圏がバックアップできることも必要

シナジー効果を発揮するための各都市圏の特徴は？

- **東京都市圏**は、日本の政治・経済の中心であり、世界のスーパー都市。何でもあるし、レベルも高い。
- **大阪都市圏**は、歴史・文化の中心。歴史的観光資源は他の地域を凌駕する。
- さて、**名古屋都市圏**の役割は？
 - 中部圏は、地理的中心性と、日本らしさが最も残る「日本の中の日本」、言わば“**Heartland of Japan**”（中心地、心臓地帯、心のふるさと）
 - その中心都市としての名古屋都市圏
 - そのためには**中部圏が一体化していることが必須**

中部のハートランド性：(1)モノづくりによる経済エンジン

- 日本の国際的地位を築いてきた「信頼できるモノづくり」の中心
- 木曾ヒノキや陶土の活用から始まる歴史
- 匠の技と精神を活かしたモノづくり
 - パソコン製造などの「組み合わせ」型でない、「すり合わせ」型の強み
- 現在においても日本の経済エンジンを担う



中部のハートランド性：(2) 自然と溶け合う文化

- 京都・奈良などにみられるような、洗練された歴史的文化的文化でなく、より日本古来の土着的な、自然と融合した文化
 - 伊勢神宮、熱田神宮
 - 白川郷・五箇山
 - 中部山岳地域の山村・自然
 - 田楽、地歌舞伎、万歳など

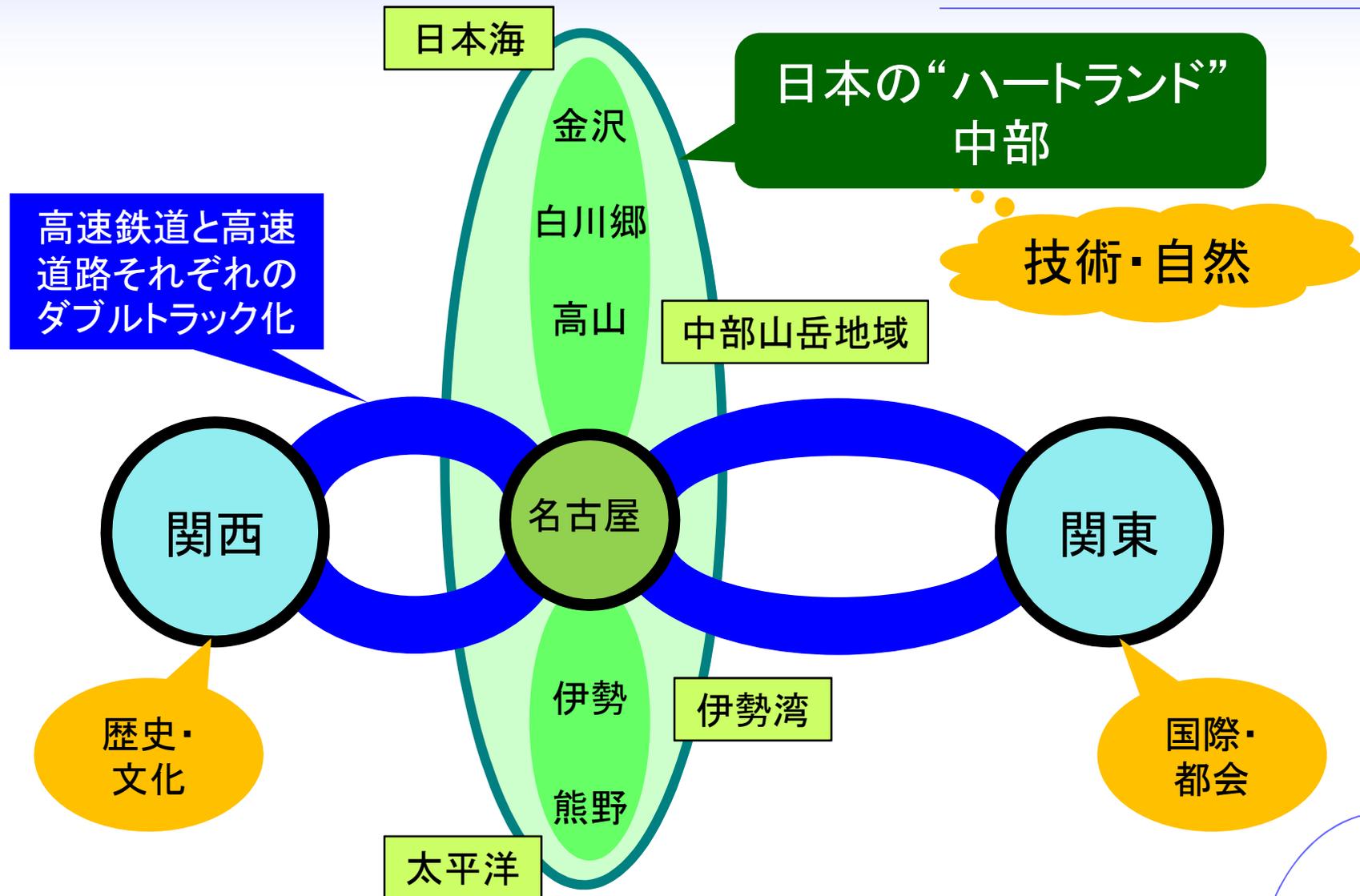


中部のハートランド性：(3)都市に息づく田舎性

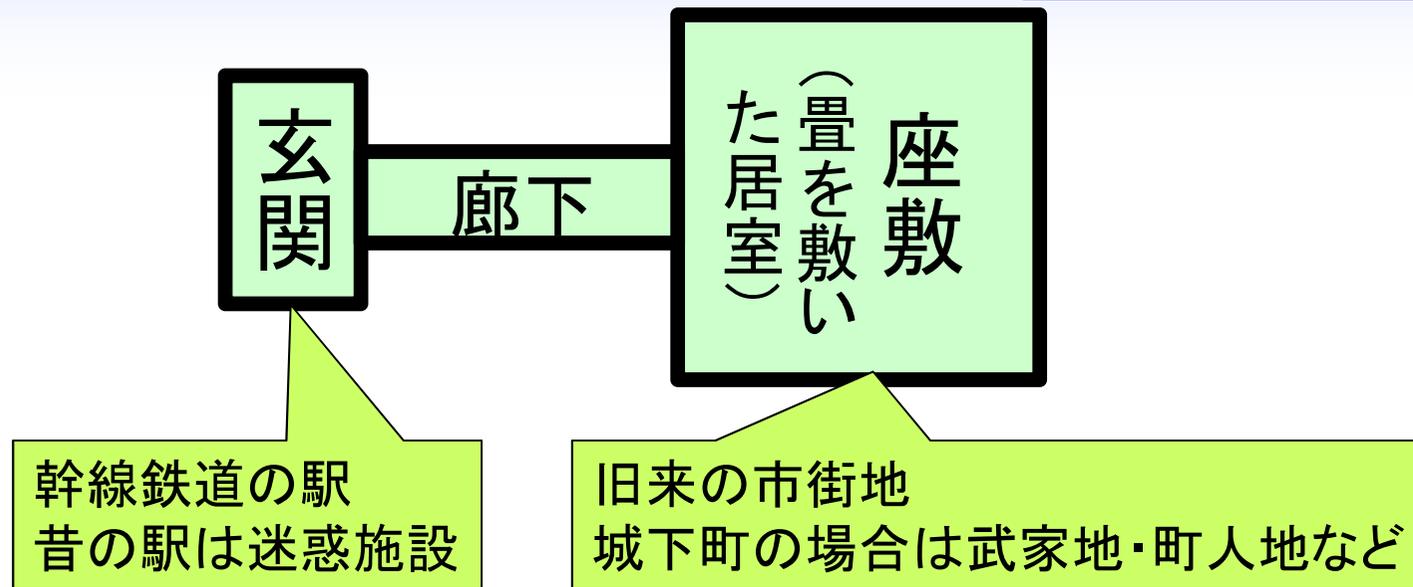
- 昭和中期までのほとんどの日本に残っていた「田舎性」が、大都市においても息づく
 - 勤勉さ、我慢強さ
 - 謙虚さ、出たからず
 - 濃密な人間関係、助け合い
 - 芸事好き
- 都市生活も田舎的良さが残る
 - 広い家、三世代同居
 - 自然への近さ



SMRにおける3大都市圏の位置付け

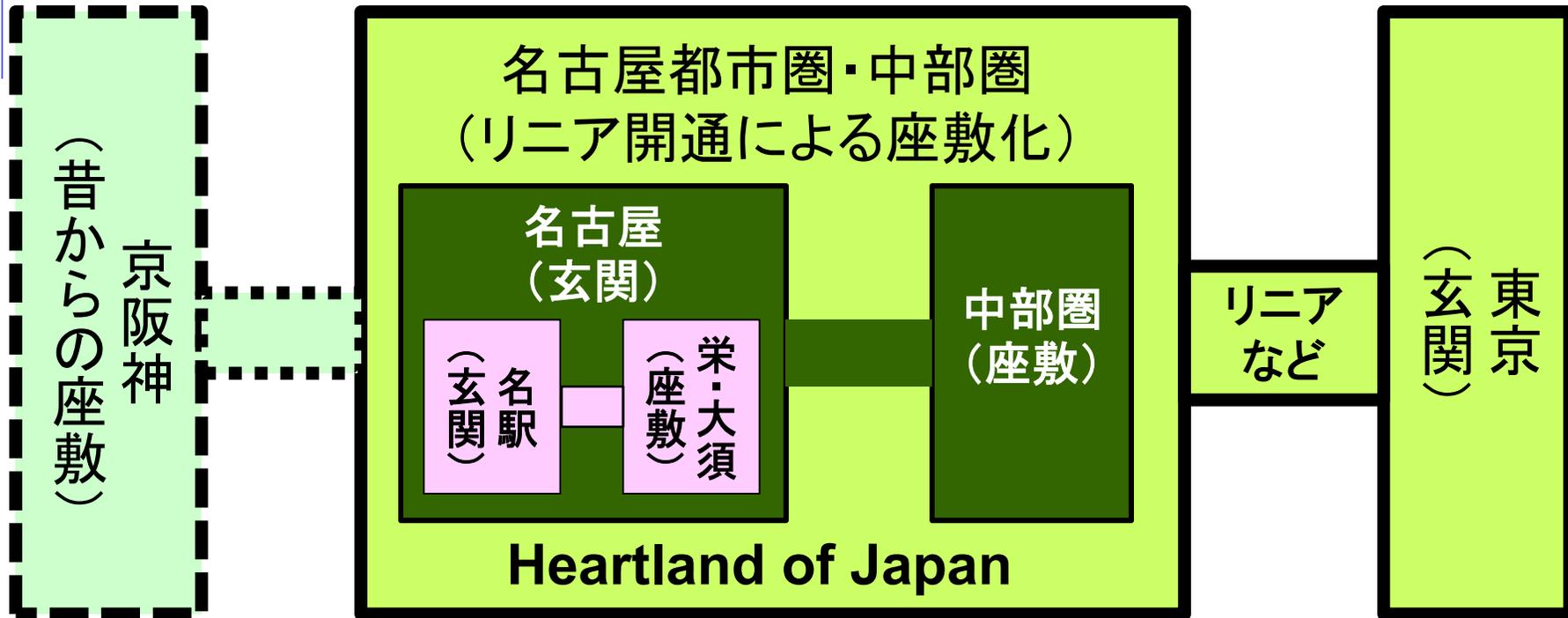


日本の都市における「玄関」と「座敷」



- もともと、旧市街地に商業・業務地や居住地があり、少し離れた寂しい場所に幹線鉄道駅があった。
- 鉄道の電化によって駅が迷惑施設で無くなり、都市の拡大や都市間移動の増加によって駅そばの価値が高まってきた。
- 駅そばの開発が進み、旧市街地のにぎわいを超えるような都市も出てきた。
- 最近では、座敷(旧市街地)まで行かずに玄関(駅そば)で用事を済ます忙しい人も多くなり、その傾向はますます顕著に。

玄関／座敷の入れ子構造



SMRにおける中部圏～名古屋のあり方

- 中部圏は、「日本のハートランド」すなわち「日本の座敷」という認識を中部圏で共有する
 - 中部圏はSMRにおける座敷として、大玄関である東京との連携を考える
 - 中部圏内の連携を強化して、モノづくりや観光で強固な協力体制を築く
 - 名古屋都市圏は、中部圏の要及び玄関として中部圏の経済・人材育成・交通拠点として政策を考える

玄関／座敷理論による中部圏～名古屋の主な課題

